



慶應四年 三月三日

一色をぬきり丸女房殿

佐野屋

くらんこまきとあつらふ

幸ひ此令

いふしそうしむをけりまの

かたき

月影しきりぬきり小

共

七

花

郭

月

手

後日



慶應四年 三月三日

三月三日 佐野屋

佐野屋

三月三日 佐野屋

佐野屋

三月三日 佐野屋

佐野屋

三月三日 佐野屋

佐野屋

三月三日 佐野屋

佐野屋

三月三日 佐野屋

三月三日 佐野屋

三月三日 佐野屋

三月三日 佐野屋

三月三日 佐野屋



言の五段云
五段の五段の段々
五十八段和野

五十九 志士將不許

孝義
敬親母也
七十九段を以て其の意を以てす

五十九 志士將不許

母今しく好む好む

後日母を以てす

Blank page with faint bleed-through text from the reverse side.

或は長柄持れ
走地二枚 御堂本 中のうらなげり

短五枚 引 ちあつてはうらなげり

折のふれ ちとていとお祭とゆふ

あつてはうらなげり
あつてはうらなげり

あつてはうらなげり

の二枚 貞持れ

御堂本 御堂本

あつてはうらなげり

あつてはうらなげり

長人 河合三郎右衛門 河村清し進

包帯二枚 カよあけち 陣をよむ

短五枚 御堂本

あつてはうらなげり

あつてはうらなげり

短五枚 御堂本

あつてはうらなげり

あつてはうらなげり

口二瓶 式了丸

五利山より取付て

きよきんをいふる

折るより中れ

とていふにやうに

二月十九日 牛馬ふ木打齋

折るより中れ

八月十五日 何もしるせ

折るより中れ

日取まじ

越前うたれ

折るより中れ

折るより中れ

折るより中れ

七月十二日 秋月お記

折るより中れ

折るより中れ

折るより中れ

八月十日

折るより中れ

折るより中れ

折るより中れ

折るより中れ

折るより中れ

同月十四日

折るより中れ

折るより中れ

折るより中れ

八月九日

折るより中れ

心 言をておれりたることさし
内言 心しりの中らたの言はれ
丹路の言 心しとゆれたる言 27の

言 言をておれりたることさし
心よれ 心よれ 心よれ 心よれ

心よれ 心よれ 心よれ 心よれ

心よれ 心よれ 心よれ 心よれ

心よれ 心よれ 心よれ 心よれ

心よれ 心よれ 心よれ 心よれ

心よれ 心よれ 心よれ 心よれ

八月

初に 初に 初に 初に

初に 初に 初に 初に

初に 初に 初に 初に

初に 初に 初に 初に

初に 初に 初に 初に

初に 初に 初に 初に

初に 初に 初に 初に

同月七

梅庄子記

論北二幅封

難く

於中内

たつて半

しんを

たかき

たつて

中

於中内

去

たつて

たつて

たつて

たつて

たつて

たつて

八月十日

たつて

たつて

たつて

たつて

月

東

明治二年

正月

橫帳一冊

亂保之可作續內年記 二冊

老成之節會備忘 二冊 四節圖 一冊

右四卷十二九七借用 戻唐稿之二十六以書此
返却ノ原也

實方云二在中將之節 臨時祭案之記

者

續節之苗二枚

右は明日香并借用之五音以書此返却後
年一五〇

臨時全圖 華盛年 一冊

女同ノ物等ハ在在也臨時之使服 一冊

臨時奈 非代帳後 一冊

上白三 諸國三枚 於夫号用

愚治才 此州案 州 一冊

右三三三信 二月音返却前田鉄藏有
改小書

二月九日 白馬 踏之 豊明木備忘 松地

長官丹武名少 以河村子部 有明

三月三日 年中御信膳備忘 宿命表紙横巻 一冊

各於省中直坊城區却

消地 九月十三日 二秀十折丸

折丸三折中凡 在土以折丸十折中凡

十月廿

巻地

雪 雪のふりあつてきて万が一は

舟 舟のふりあつてきて万が一は

花 花のふりあつてきて万が一は

鳥 鳥のふりあつてきて万が一は

虫 虫のふりあつてきて万が一は

十一月十四日

短冊 万福寺

松のふりあつてきて万が一は

竹のふりあつてきて万が一は

梅のふりあつてきて万が一は

桜のふりあつてきて万が一は

五月十三日

四月廿四日

一短冊二枚 今田田記

雪 高上三ツリ

わらわらと 輝きも玉の如く 花散らさし
おとろく人の名こそ情なれ

雪

十二月三日

一扇子二枚 至らぬ

國のうらみも けしきも生かす
あはれも けしきもあはれ

たこやき けしきもあはれ

高上三ツリ

醒言

けしきもあはれ けしきもあはれ
けしきもあはれ けしきもあはれ

雪

一短冊十五葉 堀川町三條

梅 けしきもあはれ けしきもあはれ

あはれ けしきもあはれ けしきもあはれ

柳 高上三ツリ

花 けしきもあはれ けしきもあはれ

口上 けしきもあはれ けしきもあはれ

口上 けしきもあはれ けしきもあはれ

口上 けしきもあはれ けしきもあはれ

けしきもあはれ けしきもあはれ

けしきもあはれ けしきもあはれ

雪 高上三ツリ

早春柳 けしきもあはれ けしきもあはれ

けしきもあはれ けしきもあはれ

けしきもあはれ けしきもあはれ

けしきもあはれ けしきもあはれ

五日
一箱地三枚 今田

控類ノ方

大君に東京へ行きたる由にて
富士山のふもとに作らんとせむ
けり年

種天内云々

大君に東京へ行きたる由にて
富士山のふもとに作らんとせむ
けり年

明治二年

二月七日

色紙中二枚 短冊二枚 四葉家月 石田

早春抄 抄本一冊 上ニアリ

梅 上ニアリ

述懐記 國の事ありと以て生本抄
上ニアリ

書 上ニアリ

同月十四日

降嶺 田舎時雨ノ景ニ 西高山天竺
村外古村ありてふくしむありて一軒に花を

巻地 豊岡天竺

東京へ行きたる由にて
富士山のふもとに作らんとせむ
けり年

同月廿
一巻地一枚 豊園

右の巻地は多くておぼしき
印を多お上り

一短尺 三枚 鷹家平北殿

軒の巻地 せしめりて
お上り

祝言 吉見の巻地を
お上り

祝言 吉見の巻地を
お上り

二月

短冊 三枚 輔瀨云出望春巻二枚

花 巻とく福丸巻

柳 巻とく福丸巻

巻 巻とく福丸巻
以上お上り

同月廿一日

巻紙 二枚 清水谷茨望鶴巻二枚

巻 巻とく福丸巻

巻 巻とく福丸巻

同月廿七日

一巻地二枚 巻とく福丸巻

同月十八日

一短冊二枚 梅溪少将再望

柳 巻とく福丸巻

朝鳥 巻とく福丸巻

同月廿一日

一短冊二枚 伴信令治遠 深見曼平 侯野口

巻 巻とく福丸巻

巻 巻とく福丸巻

同月九日

一卷地二枚 山井札

招り手紙

新千年友

一巻冊一枚 色紙一枚 有伸下札

招り手紙

新

一卷地一枚 短冊二枚 小万札

新

招り手紙

新千年友

招り手紙

三月四日

一巻人 十葉 水野丹内札

春

六巻里

此巻

春月

花

春

新

内涼

心

新

東京

一巻地一枚

東京

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

招り手紙

一卷地一枚 貞枝紙

東三より子 名はよきくはあきと
よし子時

各三より同上

一短冊 三枚 御

なり音のりんをいふはききと
御宗の ありしはあきとあきと

心算 風流のりんをいふは

各三より同上

一短冊 五枚 右云云同送

柳 まやとさけゆよはきき

心算 風流のりんをいふは

花 号とてくはあきとあきと

月 ありしはあきとあきと

柳 まやとさけゆよはきき

各三より同上

三月六日

一色紙 二枚 一枚吉号の長谷少納言紙

柳 まやとさけゆよはきき

各三より同上

同日

一二幅對 陽雜

紅雲之麻

一色帯一枚 千種三位紙

考ノ方 考とけしきとあきとあきと

秋ノ方 ありしはあきとあきと

と申ノ方 ありしはあきとあきと

月 いししく神の道ぬれ之方乃

一号上三アリ

四月一日

一短冊五枚 堀川新三位不詳

郭公 ありしはあきとあきと

五月雨 ありしはあきとあきと

納涼 ありしはあきとあきと

夏地儀 ありしはあきとあきと

夏夏屋 ありしはあきとあきと

夏夏屋 ありしはあきとあきと

是古損考はひらり

五月五日

一短冊十枚 天典侍向疾

那三 乞了しと云く 初は乃後も終

野徑 迷しぬる花のふれきたくと母

夏草 年とにんて是も

五月前 夏草乃花より花は去はれ

納涼 中宮乃花より花は去はれ

夏草 花と云く花は去はれ

那子平 花と云く花は去はれ

龜 為代と云く花は去はれ

夏地儀 花と云く花は去はれ

打子 花と云く花は去はれ

一色紙五枚 滋野井侍向疾

野徑 迷しぬる花のふれきたくと母

打子 花と云く花は去はれ

松乃乃 花と云く花は去はれ

松乃乃 花と云く花は去はれ

東宮上御衣 花と云く花は去はれ

花と云く花は去はれ

及名乃上ニアリ

四月五日

一短冊三枚 安部忠房正元乳

松乃乃 花と云く花は去はれ

夏地儀 花と云く花は去はれ

夏草 花と云く花は去はれ

乃上ニアリ

同月七日

一短冊二十枚 本村三高乳

野徑 迷しぬる花のふれきたくと母

初 花と云く花は去はれ

村上重光 碑記 乙未の夏

夏 陽春の如くいふ人の

亀 美作をおもく臥る

五月 丙午年 毎よる先と

仲乃 方々 乙未の母と終る如く

百夏地儀 乙未の母と終る如く

百夏草 乙未の母と終る如く

東宮より 乙未の母と終る如く

乙未の母と終る如く

乙未の母と終る如く

各二首 元記しをう上り

百夏草 乙未の母と終る如く

對情言 乙未の母と終る如く

夏地儀 乙未の母と終る如く

百夏草 乙未の母と終る如く

大夏草 乙未の母と終る如く

一短冊 七枚 西高山五在古堂

二短冊 二枚 會田勝三郎 幸成れ

百夏草 乙未の母と終る如く

百夏草 乙未の母と終る如く

六月十四日

一巻 讀 乙未の母と終る如く

一巻 別記 乙未の母と終る如く

同月 乙未の母と終る如く

一短冊 五枚 乙未の母と終る如く

百夏草 乙未の母と終る如く

牛 乙未の母と終る如く

新 乙未の母と終る如く

秋 乙未の母と終る如く

乙未の母と終る如く

〇二枚 生きた鳥八枚
夏地候 生きた鳥八枚
秋地候 生きた鳥八枚

〇上 生きた鳥八枚
〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

〇二枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚
〇一枚 生きた鳥八枚

六日

一短冊 二枚

伊井中將真意

もくろくをよみしあへうううわらう
是れをよみしにうきしわらけけ
かよれ

十日

一短冊 五枚

月
はるけけううううう
はるけけううううう
久留の天とてうき
是をよみしあへううわらう
あへううううううう
あへううううううう

十九日

一短冊 三枚 高山天

其天象

巻

あへううううううう
あへううううううう
あへううううううう
あへううううううう
あへううううううう

同十枚 由厨工英高橋天望

八月日

一画譜二枚

巻地二枚

夏月

梅濱天望
あへううううううう
あへううううううう
あへううううううう
あへううううううう

十春

一短冊三枚

あへううううううう
あへううううううう
あへううううううう
あへううううううう
あへううううううう

一月二枚

あへううううううう
あへううううううう
あへううううううう
あへううううううう
あへううううううう

七三日
一 繪巻 元菊西入 松山 中山伯執
一 巻地 二枚 短冊 四枚 西京 三 貞枝 下 望

九月十日 醍醐 疾望

秋 天 氣
月
同 三枚 各 護 屋 屋 中 村 修 之 進

十月一日

一 扇 西 條 澄 二 号 別 三 号 醍醐 下 望
一 繪 巻 号 別 三 号 丹 不 於 良 市 院
一 短 冊 七 枚 西 京 三 号 別 三 号 醍醐 下 望

十月四日

一 短 冊 一 枚 伴 中 氏 部 下 下 望 孤 且 至 隱 居 樂 山 介
一 繪 巻 一 枚 北 山 名 達 下 屬 干 真 使 一

十月五日

一 短 冊 二 枚 豊 岡 下 望
一 繪 巻 一 枚 北 山 名 達 下 屬 干 真 使 一

十月六日

一 函 讚 号 別 三 号 町 尾 息 野 下 望
一 手 鑑 一 枚 永 次 小 太 郎 下 望
一 繪 巻 一 枚 北 山 名 達 下 屬 干 真 使 一

十月三日

一 短 冊 五 枚 園 送 京 師 下 望
一 同 七 枚 不 忍 地 側

死 翁をへてうつらひ致さるるもさし
 月 三の日のあつちの月夜に
 手 有るをいふをうしてまはせ
 燈 色 かつたをを燐のあつち
 新 十年のうへに十年のあつち
 野 何れにうへにうへにうへに
 一夜書損

三言

一神号

御厨子灰福田イノ太師灰望之實八下谷
 福所社人極口孝壽礼

小キ類

護

寺に左記
 藤原季知謹書

國天神明

四日

一西地二枚

二幅對之會田勝三高丸
 東京に行きしをいふはつてうへにうへに

以方ちをく
 東京に行きしをいふはつてうへにうへに
 名よのうへにうへにうへに
 一省地二枚
 候野

九日

一加巻七十枚

巻地之東京待候本望

一鳥中側橋

阿野本望

一短冊二枚

雁鳥司本望

東京に行きしをいふはつてうへにうへに
 古

一扇西條濱 貴布祿社以候之
 一巻地二枚 此巻は大隅丸

死をへてうらみおろし
月 天の星のうらみ
手 有るうらみ
地 色 とうつをを
新千年のうらみ
一板書損

三日

一神号 御厨子天福田イノ天師天望之實下谷
小キ額 稻荷社人極口孝壽礼

重々左記
藤原季知謹書

國天神明

四日

一ぬめ地二枚 二幅對之會田勝三高
東京に於てのうらみ

むし高きうらみ
たろし西府三
一有地二枚 侯野天望之白果
一板書損

九日

一かき庵七十枚 巻地之東園侍
一鳥中ノ側板アリ 存瀆
一板ノ後瀆 阿野木望
一短冊二枚 雁鳥司
東京に於てのうらみ

一扇西流瀆 貴布祿社以流
一巻地二枚 水花人天隔礼

又此の巻地
一板書損

一短冊一枚 五山十舟小窓 瑞雲子之号

亦

一短冊 五枚 大典侍疾望

机 松 檜 友 以上今度形跡

日 起之迄終もあつていづれもつり

あつていづれもつり

一碑ノ額 万里小窓四位死望

十二月十日

一四出下望具料幣一箇ノ格アリ則一箇ノ号也

一とてり号也(やども考も菊ノ子年形跡)

一とてり号也

十九日

一色紙二枚 短冊七枚 面高也

内札ノ形跡別ニ注シ

一短冊四枚 堀川坊指

一玉佩ノ号 面高也 号別ニ注シ

一短冊三枚 徒方の家小野島

廿七日

一短冊三枚 松井堂左馬

一短冊ノ号 以内二枚形跡別ニ注シ

一四 三枚 唐紙一枚 号也

形ノ号也(号ノ号也) 号ノ号也 号ノ号也

供養ノ号也(号ノ号也) 号ノ号也 号ノ号也

一色紙一枚 大筆下ノ号

一色紙一枚 大筆下ノ号

一色紙一枚

亦

一唐紙 土室園

一唐紙 土室園



